

基幹系ソリューションの老舗企業が 次世代型エンドポイントセキュリティに注力!!

東亜燃料工業(株)(現・ENEOS(株))の子会社として1985年に創業して以来、長年にわたって企業の基幹系ソリューション(※)を担ってきたシステムプラザ(株)(東京都港区)。近年はセキュリティ対策にも力を入れており、このほどエンドポイントセキュリティシステムの「ED Sure Click Enterprise(H.P.S.C.E)」の取り扱いも開始したという。そこで、同社ソリューション事業部長の遠藤隆幸氏に昨今の事業概要やセキュリティ対策に関する施策について聞いてみた。

プロセス製造業に 特化した仕様で 基幹系ソリューションの 販路を開拓

——まずはシステムプラザ(株)の沿革について伺いたいと思います。

遠藤隆幸・システムプラザソリューション事業部長 当社の前身となる東燃システムプラザ(株)が設立したのは1985年のことです。東亜燃料工業(株)(現・ENEOS(株))のIT部門が分社化する形で誕生し、その後98年に東亜燃料工業が東燃システムプラザの全株式を横河電機(株)に譲渡したため、横河電機グループの一角を担うことになりました。2008年に横河ソリューションズ(株)(現・横河ソリューションサービス(株))から独立して以降は、システムプラザ(株)という社名で事業を展開してい

ます。

——東亜燃料工業の子会社だったということですが、当時はどのようなシステムを取り扱っていたのでしょうか。

遠藤 主に東亜燃料工業向けのシステム開発を手掛けていたのですが、その後、そのノウハウをもとに、徐々に石油や化学、食品などのプロセス製造業(流体を原料とする製造業)向けのROSS ERP(統合基幹業務パッケージ)のビジネスを大きくしていきました。現在は統合基幹業務パッケージビジネスのほか、クラウドコンピューティングビジネスやセキュリティ対策ビジネスなども手掛けています。

——ガソリンスタンドなどのシステムも手掛けていたのですよねか。

遠藤 東燃システムプラザ時代は東亜燃料工業の本社や工場の

システム保守・運営、さらには配車の管理システムなども手掛けていましたが、ガソリンスタンドとは別の領域です。ともあれ、当時のノウハウがあるからこそ、現在もプロセス製造業の現場に寄り添ったソリューションを提供することができています。

——現在の主力事業のなかでもっともシェアが大きいのはどれでしょうか。

遠藤 一番大きいのはやはり統合基幹業務パッケージビジネスです。東燃システムプラザ時代から一貫してプロセス製造業に特化、徹してきました。今もそれが強みになっています。もっとも、近年では取り扱う商品ラインアップも多様化し、最盛期に比べると当社の売り上げに占めるシェアは減少しましたが、いまだに最大の柱であることは間違いありません。ちなみ



システムプラザの遠藤隆幸ソリューション事業部長

※ 生産管理システムや在庫管理システム、人事給与システム、会計システムなどの基幹系システムを一元管理するためのシステム。

に、ROSS ERPに関しては10社ほどの大手企業と契約を結んでおり、時代ニーズや法令の変化などに合わせた改善をづづけています。

——ROSS ERPの保守・運営に関してはどのような点に注意していますか。

遠藤 顧客のシステムやデータを一手に担うことになるので、それらを誤って毀損しないように細心の注意を払っています。ほんのささいなバグ（欠陥）があっても生産・出荷が停止するなど、一大事につながりかねませんから。

——たしかに今年3月には部品メーカーがサイバー攻撃を受けたことで、トヨタ自動車の国内全工場（14工場28ライン）が稼働停止になってしまつたことなどもありましたね。御社では具体的にどのような体制で保守・運用をすすめているのでしょうか。

遠藤 大切なデータを取り扱っているという意識を持ち、かならずふたり体制でダブルチェックをしながら作業に取り組みむように指導しています。

——ROSS ERPの開発やアップデートにもさまざまな工夫を凝らしているかと思いますが、そのあたりについてはどうでしょうか。

遠藤 システム開発には要件定義や基本設計などの段階がありますが、そのつど担当者が詳細な資料を作成し、ソースコードなどの細かい部分も含めてチームでレビューを行い、ブラッシュアップを繰り返したうえでつぎの段階にすすむようにしています。そのため、どうしても時間がかかってしましますが、それがパッケージの品質向上、そして顧客からの信頼を得ることにつながるのです。一切の妥協を許さないようにしています。また、こういったプロセスを経ることで、何か問題点が生じたときにすぐにその原因を抽出し、改善に取り組みめるというメリットも得られます。

国内外の最新システムを活用し日本企業の持続的成長に貢献

——近年ではセキュリティシステムの販売にも力を入れてい

るそうですね。その背景についてお聞かせください。

遠藤 最近ではコロナ禍でテレワークの機会が増え、社外から社内へのネットワークに接続する際にもエンドポイントに関するセキュリティが重視されるようになりました。とりわけ当社の顧客のなかにはグローバルなサプライチェーンに関連する企業も多く、身代金要求型ウイルスの「ランサムウェア」や一般的なセキュリティ対策では検知しにくい「EMOTET（エモテット）」をはじめとした多くのマルウェア（悪意のあるプログラムの総称）のリスクにさらされています。事実、国内でも防衛産業やプラント関連事業者、発電所や石油化学プラントなどの建設や部材に関係する企業を狙ったサイバー攻撃が確認されているので、気を引き締めなければなりません。他方、最近では関係者をかたったメールが急増しているようで、今までセキュリティにあまり関心を持っていなかった中小企業からも問い合わせや相談が増えています。そういった状況にあつて、当社でもデータベースセキュリティ（データベースへのセキュリティ対策）やその他のセキュリティ製品に加え、「HP Sure Click Enterprise (H P S C E)」を

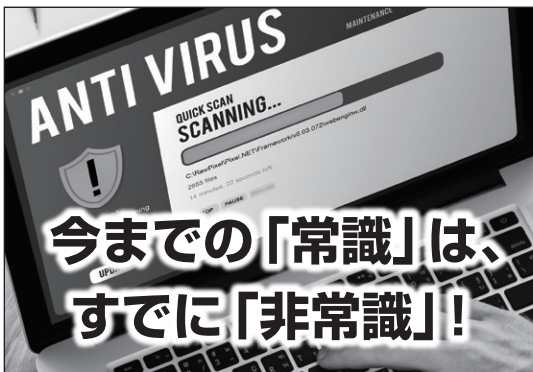
取り扱うようにしたので。従来のセキュリティ製品と比べて、どういった違いがあるのですか。

遠藤 H P S C Eの最大の特徴は、マイクロVM（仮想パソコン）を介して、メールやインターネットなど外部から受領するファイルの一切をすべて安全に開くことができる点にあります。そのセキュリティレベルは実に高く、まさに「最後の砦にふさわしいシステムだ」と思います。多くの企業ではすでに導入していますが、より完璧なセキュリティ対策を講じたいとお考えの向きにはH P S C Eを積極的に提案していきたいと考えています。

——今後の展望についてお聞かせください。

遠藤 サイバーセキュリティを取り巻く環境はますます厳しいものになってきているので、これから国内外の最先端のテクノロジーを導入しながら、日本企業の持続的成長に貢献していきたいと思えます。

——御社の技術とノウハウは、大手企業にとつても中小企業にとつても頼もしいものだと思います。引きつづき日本のサイバーセキュリティの向上のために尽力してください。



もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう



HP Sure Click Enterprise

おかげさまで Bromium は HP Sure Click Enterprise に進化しました



エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。100%* 防御し、レポートします。是非ブロードにお問い合わせください。

*2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で ... <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)

